

イギリス



Vol.1 週に5日はジャガイモ料理

今回はイギリスに留学されていた瓦井貴史さんにお話を伺いました。

イギリスのどちらに住んでいましたか？

イギリスの南部にあるスワネージという町にホームステイしていました。スワネージはロンドンから電車で2時間半程離れている海沿いの避暑地で、夏は観光客でにぎわっていましたね。

ホストファミリーの家族構成は？

父(35)、母(35)、娘(12)でした。

暮らしてみてどんなところがいいなと思いましたか？

イギリスの人たちの生活スタイルは、質素であり無駄なことをしない印象です。学校や仕事以外では、本当にゆったりした生活を過ごしていましたね。休日では一日に4~5回紅茶を飲んだり、散歩をしたり、日本にいるときより一日が長く感じました。日本ではいつも忙しくて時間を気にしながら生活しているんだなと実感しました。



日本と比べて『これは違うな』と思うこと、驚いたことはありましたか？



家族という時間が長いことですね。学校や会社以外は、ほとんど家族で行動する時間でした。また、週末にパブでお酒を飲んだり食事をとったりしたときも家族みんなが一緒でした。

それでは友達と過ごしたり、一人で過ごすことはほとんどないのですか？

休日に友達と出かけたり、学校から帰った後にみんなで集まって遊んだりする事はもちろんありました。でも、家にいる時間もいつも家族全員がリビングに集まっていて、一人で過ごす習慣はなかったですね。ホストファミリーの女の子も勉強の時間と寝るとき意外はずーっとリビングにいました。

その他に日本と違うところは？

お酒は18歳から、タバコは16歳から認められていることです。そういうことがあってか、日本人よりもみんな大人に見えましたね。

あとバスや電車のチケットで、往復券を買うのが主流だったことが印象的です。行くことがあるなら戻ってくるわけだからまとめて買っちゃえ！という感覚なんだと思いますが。(笑) 確かにそうだけど、日本ではあまり一般的な考え方ではないですね。その往復券の割引率がすごく良かった記憶があります。

食事については何か変わっていたことはありませんでしたか？

イギリスの人はジャガイモを主食にしているので、週に5日はジャガイモ料理がメインで出てくるんです。ちょっと驚きましたね。ローストポテトやマッシュポテト、チップス、ポイルドポテトなどいろんな料理に姿を変えて毎日のように食卓に並んでいました。一番印象深い料理は、ひき肉・じゃがいも・チーズを何層かに重ねて焼いた料理で、これは週に2回は食べていました。あまりにもじゃがいもばかり毎回出てくるので、不思議に思っていたのですが、日本のお米と同じような位置付けだと考えれば当たり前のことですね。むこうで生活するまではパンが主食だろうと思っていたのですが、パンは「つけあわせ」と言う感覚だったようです。



今回のお話の中で“パブ”というものが何度か出てきましたが、これはどんなものですか？

パブとは“パブリック・ハウス”の略で、イギリスではすごくポピュラーな酒場のことですね。パブは歴史が深く、500年も前からイギリスの人の生活に根付いているものらしく、ロンドンなど都市にあるものと、田舎にあるカントリーパブの2種類がありました。

都市パブは大人がお酒を楽しむところで、子供は入れないし、それなりの格好でないといけないような雰囲気のことかこまったお店。



カントリーパブは近所の人たちが気軽に寄り合えるような地元密着型のファミリーレストランのようなお店だったと思います。私がよく行っていたのはカントリーパブのほうでした。学校から帰るとみんなでお店に集まっていましたね。日曜日は定休日なのでそれ以外の日は毎日通っていました。だいたいどこのお店にもダーツやブール(ビリヤードよりひと回り小さいもの)が置いてあり、みんなでワイワイ言いながら遊んでいました。パブはその地域の人たちにとっては無くてはならない存在だったと思います。

家族・友達・近所の人たち。イギリスの人たちは“みんなで楽しむ時間”を大切にしている事がわかりましたね。

今回は、イギリスのイベントについてお届けします。

イギリス

Vol.2 クリスマスは2連休!!



今回はイギリス 瓦井貴史さんの最終回です。
イギリスの行事についてお話をうかがいました。



イギリスの誕生日について教えてください。

仕事よりはお祝い事の方が優先で、家族みんなで過ごしていましたね。

その他、私が体験した誕生日ではあまり日本と違った点はありませんでした。

強いて言うなら、プレゼントはなくても必ずメッセージカードだけは贈るといふ点でしょうか。

実は、私の誕生日とイギリスの終戦記念日が同じ日(5月8日)で、その日は休日だったので、昼間からみんなに祝ってもらったんです。ホームファザー(ホームステイ先のお父さんです)と昼からパブへ行って食事をしたり、親しい人たちと夜までお酒を飲んだりして過ごしましたね。その日はお店を3件ハシゴしてしまいました(笑)。

私の誕生日はそういった感じでしたが、イギリスでは一般的に誕生日は産んでくれたお母さんに“ありがとう”と伝える日だと聞いたことがあります。それは日本にはないおもしろい発想だなと思いましたね。

それではクリスマスの過ごし方はどうでしたか？

誕生日と同じく、家族と過ごすのが基本でした。

イギリスではクリスマスは国民の休日なので、家族で買い出しに行って材料を買い揃えてパーティーをしていました。

午後3時から全国版テレビで女王のスピーチが放映され、国民への祝賀とこの一年の出来事についてコメントするんですが、これを家族揃って聞くのが習慣になっていましたね。

その翌日もボクシングデーと言って同じように休日なので、みんなゆったり休んでいました。

なんとなく、日本のお正月と似た雰囲気があったと思います。

礼拝に出かけたりはしないのですか？

クリスマス前になるとそれぞれ礼拝に行く習慣がありました。

昔はクリスマスに限らず日曜日ごとに礼拝に出かける習慣があったそうですが、今は行かない人も増えたそうですよ。

それではクリスマス特有の食べ物などはありましたか？

ロースターキー(七面鳥の丸焼き)・クリスマスブディング・ミンスパイでしょうか。

ロースターキーは丸ごと一匹をみんなで切り分けて食べましたね。

ミンスパイは色々なドライフルーツを甘く漬け込んだものをパイ生地で包んで焼いたものです。

クリスマスブディングはミンスパイで使ったものと同じく甘く漬け込んだドライフルーツを、ギュッと固めたような食べ物で、きっと皆さんが想像しているようなブディングとは違います。中にはコインがひとつ入っていて、切り分けられたブディングの中にそれが入っていると次の年に幸せになれるという言い伝えがあるみたいです。私は当たった記憶がないですけどね。(笑)



プレゼントはどんなものでしたか？

プレゼントはそれぞれが家族みんなの分を用意していました。その内容は日本と変わりはありませんでした。

誕生日のお祝いのときもそうなんですが、クリスマスにもカードを贈る習慣がありましたね。

これは18世紀に生まれた風習で、昔はシンプルなカードを送っていたそうなんですが、最近は色々なバリエーションのカードがお店に並んでいて、カードコーナーはすごく賑わっていました。

そのカードはたくさんの人に贈って、相手から届いたものを部屋の中いっぱい飾るんです。それもまたクリスマスの雰囲気を盛り上げていたような気がします。

カードの内容は堅苦しいものではありませんでしたが、12月25日まで必ず届くように出さなければならない点など、日本の年賀状と似ているところがありましたね。

イギリスのクリスマスは、日本のお正月と同じくらい大事な行事。料理やクリスマスカードなど、昔からの風習を大事にしている様子がうかがえました。

次回はマレーシアについてお伝えします。